

喜怒哀楽を刺激する小説

虚構の世界での出来事に一喜一憂し、感情を揺さぶられる。それは小説を読む事の醍醐味ではないでしょうか。今回は喜怒哀楽、私達の根幹となる四つの感情を刺激する物語をご紹介します。（物語の内容と感情の分類は選者の主観によるため、必ずしも一致しない場合があります。）



「きなのりの雲」
石田千著
講談社
Fイ
篠崎ほか所蔵

失恋から心も身体も傷ついたさみ子が、周囲の助けを借りながら立ち直り、少しずつ回復するように日々を取り戻していく物語。古アパートの隣人たち、公園向こうのパン屋のおじさん、編み物教室の生徒さんや大切な友人とのやりとりから、植物への愛情、食べ物への感謝といった、日常の中で感じる喜びや幸せがいっぱい詰まった一冊です。



「女たちのジハード」
篠田節子著
集英社文庫
BFシ
篠崎ほか所蔵

簡単に思い通りにいかないのが世の常。でも、もしそれが人生の岐路となる譲れない選択だとしたらどうしますか？ 本作に登場するのは保険会社に勤める女性5人。それぞれが苦境に立ち向かい、挫折にもめげず闘います。ここには彼女達の喜怒哀楽全てが詰まっています。そして読者である私達の読後感は間違いなく「喜」でしょう。



「戸村飯店青春100連発」
瀬尾まいこ著
文春文庫
BFセ
篠崎ほか所蔵

大阪にある中華料理店に生まれ育った戸村兄弟。兄は高校卒業とともに東京へ。弟は大阪で家を手伝いながら高校生活を送る。見た目も性格も正反対の二人はお互い苦手意識を持っていたが、離れて暮らすことで徐々に変化が……。戸村兄弟のお互いを思う不器用な姿は読んでいて微笑ましく、幸せな気持ちにさせてくれます。



「忍びの国」
和田竜著
新潮社
Fワ
篠崎ほか所蔵

映画化され話題となった「のぼうの城」の著者による歴史エンタテインメント小説。織田軍による伊賀攻めをもとに描かれています。圧倒的な兵力と火力を持った織田軍に対し、伊賀軍は得意の忍術で対抗します。作中で忍者が使う大間離れした体術や縄抜け、土遁などの心躍る忍術の数々。忍者好きにはたまらない楽しい作品です。



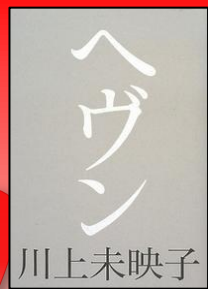
「オーランドー」
ヴァージニア・ウルフ著
ちくま文庫
B933ウ
篠崎所蔵

36歳の女性にして360年の両性具有の経歴をもつオーランドー。フェミニズム論で語られがちな作品ですが、ファンタジーとしての楽しさにも溢れています。エリザベス一世のお気に入り美少年、やり手の大使、7日間の昏睡の後女性に変身し、ロンドン社交界のパトロン、文学賞受賞の詩人になり、途中結婚、出産も経験……。世紀を超える愉快な大遍歴をお楽しみください。



「それゆけ、ジューズ」
P.G.ウッドハウス著
国書刊行会
933ウ
篠崎ほか所蔵

英国のユーモア小説の大家、ウッドハウスが織り成すドタバタ喜劇小説。超優秀な執事ジューズと、彼が仕えるダメ主人パーティが巻き込まれるとぼけた騒動の数々に笑わされ、ウィットに富んだ絶妙な訳文にも笑わされます。シリーズのうち、ジューズ初登場の回が収録されたこちらが特にお薦めです！



「ヘヴン」
川上未映子著
講談社
Fカ
篠崎ほか所蔵

読了後、怒りを通り越した感情が湧きあがる。悪意などないじめのシーンに、人はどれだけ人の気持ちを想って行動できるのだろう、と考えずにはいられない。主人公2人がどういじめに立ち向かったのか、この物語のラストシーンに果たして救いがあるのか。ご自分で確かめてみて下さい。



「峠」(上・中・下巻)
司馬遼太郎著
新潮文庫
BFシ1-3
篠崎ほか所蔵

幕末の動乱期に、新政府にも旧幕府にも属さず武装中立を目指した長岡藩。本作はその長岡藩を主導した河井継之助の物語です。彼は強い信念のもと、長岡藩を様々な政策で強藩にしていきます。しかし、新政府に中立の姿勢は受け入れられず、泥沼の戦闘に突入してしまいます。中立を認めず、白黒ははっきりさせようという新政府に憤慨しました。



「怒りの葡萄」(上・下巻)
スタインベック著
新潮文庫
B933ス1-2
篠崎ほか所蔵

合理化の名のもと、銀行や大地主から土地を追われる小作農たち。オクラホマのジョード一家もそのひとつで、新天地カリフォルニアを目指します。しかしそこには過酷な現実が次々と立ち塞がります。それでも一家はひたすら前に進もうとします。どんな苦難も乗り越えようとする姿に、社会に対する怒りとともに感動せずにはいられません。

そのメロディに魅せられて♪

今回ご紹介するアルバムの収録曲は全てクラシックをモチーフにしています。その中の「カンパニユラの恋」「ノクターン」はショパンの「夜想曲第20番・遺作」をモチーフとし、前者が日本語詞、後者が英語詞の曲です。同じ曲でも歌詞が違うことで雰囲気も大分変わり、それ

「my Classics!」

平原綾香 K1ヒ13802 中央ほか所蔵



がこのCDの魅力の一つにもなっています。好きな曲があれば、そのクラシック曲を聞いてみるのも面白いと思います。図書館にはクラシックCDもあるので是非借りてみて下さい。

スタッフのセレクション! 第28回

篠崎図書館で働くスタッフが選んだおすすめ本を紹介します。

「ラッキーをつかみ取る技術」

小杉俊哉著 光文社 S159コ 東葛西所蔵

所謂自己啓発本、教訓や生き方を学ぶ本は数多く出版されており、私の好んで読むジャンルの1つです。自分の人生に役立つヒント、自分を高めより良くなるヒントが書かれているのではないかと期待するからです。

世の中にはいつもうまくいっているように見え、楽しそうに幸せそうな人がいますよね。一方で、頑張っているように見え、辛そうなお人や不機嫌なお人がいます。この本ではラッキーなお人とアンラッキーなお人は、それぞれ共通する考え方、行動をとっていると書かれています。ラッキーは偶然起こるのではなく起こるべくして起きているのです。ラッキーをつかみ取ることは「技術」であり一連の行動を習慣化すれば、誰でもラッキーをつかむ確率を格段に高めることができ、能力が高まっていくと説いています。一部を紹介します。

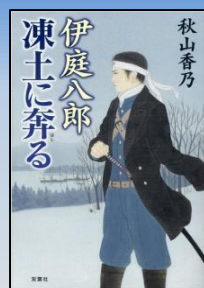
○ありのままの自分を出すこと。マイナスの自己イメージを持ったり仮面を被ったりしない。理想に縛られない。
○ラッキーは人が運んでくるものであり、良いネットワークを作り育てることにより、必要な時に向こうからやってくる。
○ラッキーを取りに行く。何度、中断しても良い。最後はうまくいけばよい。

社会の中で戸惑いながら生きている私達は間違っただけの思い込みをしていたり、大切なことを見落としていることがよくあるのでしょう。優先順位はどれだけ自分にとって重要かで決める、ということにハッとしました。本書は人生をいかに楽しむかが書かれています。



「棒の哀しみ」
北方謙三著
集英社文庫
BFキ
篠崎ほか所蔵

棒つきれのように生き、棒つきれのように死ぬ。そんな生き方で良かったチンピラなのに、時勢から組長になり、組織は大きくなっていく。自分はチンピラでいたいのか、それとも——。ヤクザの世界を描いた作品だが、主人公の抱える組織へのいらだちや空しさ、そしてその生き方に、人間の抱える哀しみを感じてしまうのは自分だけだろうか。



「伊庭八郎凍土に奔る」
秋山香乃著
双葉社
Fア
篠崎ほか所蔵

伊庭八郎は、隻腕でありながら遊撃隊の隊長を務めた人物である。幕臣として戊辰戦争を戦い、死に場所を求め箱館へ渡るも銃弾に倒れる。もう戦場へ立てないかもしれない、いつか傷が治癒して戦えるかもしれない。その揺れる思いの中で弱音を吐いてしまう八郎の姿が切ない。しかし、己の信念を貫き戦う姿は、不器用だが格好良いとも思うのだ。



「声」(「アガタ/声」所収)
コクトーほか著
光文社古典新訳文庫
B952テ
篠崎ほか所蔵

男からの別れ話で破局した男女。男にはすでに婚約者がいるが、女はまだ男を愛していた。男との最後の電話を、夢中になってしゃべる女。しかし、男は気持ちが冷めた様子を隠すことができず、電話も早めに切り上げたい様子。女はそれを知りながら、自分の方から電話を切ることができない。そんな女の最後の台詞は、まさに「哀」の一言。